

「プログラミング」取り入れ

刈谷・双葉小で理科授業

コンピューターを使う求めているが、実践って論理的な思考力を養う「プログラミング教育」を取り入れた理科の研究授業が刈谷市の双葉小学校であった。プログラミング教育が二〇二〇年から小学校で必修化されるため、文部科学省は各教科と結び付けて行うよ

う求めているが、実践例はまだ少ない。電気の性質を学ぶ六年生の授業で、児童がコンピューターと豆電球、制御に関わる基板を接続し、コンピューターのプログラミングソフトを操作して一秒後に消すといった課題を次々にこなした。電球を激しく点滅させる設定をしたグループも。

一学期の総合的な学習の時間で八時間、プログラミングソフトにの「準備や授業の時間親しんでおり、その確保が難しい」といった経験が生きた。加藤咲江教諭は、センサーライトなど、電気とプログラミングを組み合わせた仕組みが身の回りにあることも伝えた。

授業後には、市内の教員らが情報交換。教育効果は実感したものの「準備や授業の時間確保が難しい」といった課題が指摘された。(佐橋大)



コンピューターで豆電球の明かりを制御し
よつとする児童たち＝刈谷市の双葉小で